

令和6年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：後志地区
- 2 事例報告学校名：倶知安町立北陽小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 加藤 数馬
- 4 キーワード：学校間連携と地域の教育資源の活用

1 はじめに

倶知安町は、後志地方の中央に位置し、東の羊蹄山と西のニセコ連峰に囲まれた自然豊かな町である。冬の積雪量は多く国内有数のスキーエリアで、世界でも指折りのパウダースノーが魅力となっていてインバウンド需要も高まり、国際的な観光リゾート地域となった。自然を活かしたアクティビティや地元の素材を活かした特産品も豊富で、1年を通して国内外の観光客が訪れる町である。

本町では、12年ほど前に統合した中学校1校に、小学校5校（分校1校を含む）の児童が進学する。中学校卒業時を見据えた教育を連携的に進めていく必要性を重視し、小学校5校の横のつながりと中学校との縦のつながりをもつ取組として「倶知安町HAND IN HAND」を推進した。令和3年度、学校力向上に関する総合実践事業の指定を機に「地域一体となった学校力向上」を推し進めるため、児童が各校で共通の指導を受けて中学校に進学し、9年間で力を積み上げる「倶知安プラン」を構築した。以降改善を重ねながら、本町の重要な学校教育の基盤となり、成果を上げている。

2 連携的学校力向上のマネジメント～学校間連携

(1) 倶知安プラン

子どもが安定し、学年毎に必要な資質・能力を段階的に確実に身に付けていくことができるよう、倶知安中学校区全体の取組として推進していくものである。町内全ての学校は、次の5点について確認し、校長は自校の学校経営方針に反映させている。



- ◆授業改善（授業展開の統一、流れがわかる板書・板書型指導案と単元計画）
- ◆学習規律の統一（倶知安五つ星）
- ◆学校間、家庭、地域との連携・協働（総合カリキュラムの共通化、合同研修、地域人材活用）
- ◆ウェルビーイングな学校づくり（安心して学べる場、安全な学校づくり）
- ◆働き方改革（推進チーム設置、学校DX）

(2) つながる、つくる、はぐくむ

①教育課程実践交流会

- ◇年9回実施（各校の教頭・主幹・教務主任）
- ◇実施計画策定
- ◇進捗状況の確認と定着（授業参観、交流等）
- ◇計画の推進
- ◇テーマにより、初任者、生徒指導担当者、高校教員、授業参観希望者等が参加
- ◇検証改善（アンケート・共通の評価項目）



主幹・教務主任の話し合いの様子

②合同研修会（4月・11月 町内全校の教職員、町教委）

- ◇4月…… 倶知安プラン概要説明、転入職員紹介、1回目の町内学年部会
- ◇11月…… 倶知安町教育実践発表会（授業参観、講演）

③町内学年部会（年9回 町内全校の教職員 Meet）

- ◇学年×6、特支、通級、養教、事務、主幹・教務、教頭の12ブロック
- ◇中3学年は小6、中2学年は小5、中1学年は小4のブロックに入る
- ◇日常の授業の交流、相談（授業進度、教材や指導案の共有等）
- ◇倶知安五つ星、ICT活用等、倶知安プランの進捗状況を交流
- ◇ベテラン・ミドル教員と経験が浅い教員との実践交流

3 地域の教育資源の活用～地域との連携・協働

(1) 農高交流

倶知安農業高等学校の協力を得て、5年生は稲づくり、4年生は倶知安町の特産品であるじゃがいも等の作物を育てる学習をしている。農業高校の田や畑を使わせてもらうとともに、子どもたちは高校生から丁寧に作業のコツを教えてもらう。秋には収穫を喜ぶ子どもたちの笑顔が見られる。



(2) イングリッシュキャンプ

本町小学校における外国語の授業では、町にある民間業者に委託した英語専科指導者が配置され、担任と連携した指導を行っている。また、ひらふスキーエリアにある飲食店やホテル等の協力を得て、子どもたちが学んだ英語を使ってコミュニケーションを図るイングリッシュキャンプを実施している。



(3) コミュニティ・スクール

町の学校運営協議会制度が機能していることにより、学校教育と社会教育とのつながりが図られている。学校は主にふるさと学習における地域人材の派遣に関わって協力を得やすくなり、町の自然や文化、歴史等の学習において、「その道の方々」を講師に招いたふるさと学習が行われている。生きた教材を使った授業により、子どもたちの学びは深まり、成果を上げている。

4 おわりに

今年度の新たな取組「町内学年部会」の中間反省では、「この部会があるからこそ、figjamやcanvaに早めに取り組んでおこうと思えた。」「初任者ということとクラスが一つしかないこともあり、不安な中で他校の様子を聞けたり、アドバイスを聞けたりするのは良いと思った。」等の意見が寄せられた。課題点もあるが、町内の教員の横のつながりができたことで、これまで以上に連携が進んだと感じる。今後も町全体が一体となって取り組み、9年間の子どもたちの学びと育ちを支えていきたい。